

## 尿崩症（腎性・中枢性）

---

腎臓では体内の水分バランスが一定になるように、喉が渇いた時は尿を濃縮し体に水分を保ち、また水分を取りすぎた時は尿を希釈して体の中の水分を出すように調整しています。水分の調整方法はいくつかありますが、その主役となるのが脳で作られ腎臓に作用する抗利尿ホルモン（AVP）です。しかし様々な原因で AVP が持続的に産生されないため尿が濃縮できない病気を「中枢性尿崩症」、AVP は産生されるが腎臓に作用する場所（受容体）に問題がある病気を「腎性尿崩症」といいます。

### 症状

どちらの病気も尿が濃縮できないので薄い尿が大量に出るためトイレに頻繁に行くようになり、体は脱水になるので喉が渇きやすく多飲になります。脱水の程度が強いと痙攣することもあります。また長期間の尿崩症の症状は身長や発達に影響するとも言われています。

### 診断

採血や尿検査に加え、頭の MRI で AVP を作っている場所に異常がないか、濃い点滴をして血液や尿の反応をみる検査を行い診断します。また腎性尿崩症の一部は遺伝するため遺伝子検査を行うこともあります。

### 治療

中枢性尿崩症は AVP を産生できない原因が除去できなければ、錠剤を内服したり点鼻したりして補充する治療法があります。腎性尿崩症では原因となる病気や薬剤を取り除くことができない、また遺伝子の異常であれば補助的な内服薬や対処療法が主になります。